



富士山木造住宅協会が出展した実物大の住宅展示

ナイス（横浜市、平田恒一郎社長）が東京ビッグサイトで開催した「住まいの耐震博覧会」に、このところ毎回、実物大の在来戸建て住宅（パワービルド、ウインウッド、パワーストラクチャー等）の躯体が展覧され、建て方実演を行い、ナイスは建築金物を使って強度計算のできる地震に強い家づくりを推進している。

富士山木造住宅協会

今回の住まいの耐震博覧会では、富士山木造住宅協会（富士市、寺崎幸治会長）も、地元富士松のPRを行い、地域の国産材を構造材

松普請の在来木造PR

地域材で地元職人が家作り

今回の住まいの耐震博覧会では、富士山木造住宅協会（富士市、寺崎幸治会長）も、地元富士松のPRを行い、地域の国産材を構造材

「すばらしい国産材の骨組み」「地域の工務店達と共に地域材を有効に活用した家づく

成平角・構造用まですべて国産材を使い、建築金物は環境を考えたノンクロムのデュラルコートを採用した。建具類もキッチンや

洗面台の扉、リビングボードに国産材を採用するなど、徹底して国産材を使用。「建坪30坪程度の、実物大の在来木造住宅の骨組みを

再現。富士山木造住宅協会は、今年5月に発足した全建連の所属団体で、日本の木で、日本の技で、日本の家を推進している」（遠藤龍一事務局長）。

中央には、らせん階段を配置。外部のウッドデッキから杉Jパネル使用の曲線をデザインした木製のいす、杉ツキ板張りの自動販売機や、ラッチ合板の力ツト残材を利用したテーブルなど、新技術のほか、端材を有効活用した開発商品の展示が関心を呼んだ。